



素敵な音色で会場内が満たされました。

がん診療委員会・医療連携課 佐野 七緒子
2月17日(金)に当院アトリウムにて「第64回読響
ハートフルコンサート」が開催されました。

このコンサートは、がん患者さんとそのご家族への
支援事業を行っている「正力厚生会」と「読売日本交
響楽団」とのタイアップ事業で、全国のがん診療連携
拠点病院等で年に数回開かれています。



当院に入院・通院され
ている患者さん、そのご家族の方々に楽しんでもらいたいと
の思いから2年越しの願いが叶い、今年度お越しいただくこ
とができました。



当日は、モーツァルトの「ア
イネ・クライネ・ナハトムジーク」の第1楽章や、映画「と
なりのトロ」のテーマ曲、「川の流れるように」に「ふるさと」
など10曲が演奏されました。

読売日本交響楽団のメンバーが奏でる、バイオリン、ピアノ、チェロの弦楽四重奏は癒
しの音色を響かせ、会場全体がこの素晴らしい演奏で感動に包まれました。



お知らせ

●イベント



むさしのふれあい赤十字デー

日時：5月13日(土) 午前10時～午後3時
場所：武蔵野赤十字病院
問合せ：医療社会事業課



- ・コンサート
- ・バザー
- ・診療病教室
- ・健康チェック
- ・子ども広場 など

お待ちしております。

●公開講座

講座名	開催日	時間	場所	受講料	申込	問合せ先
聴覚病教室	4/1,5/20,6/3	13:00～15:00	3階	無料	不要	医療社会事業課
心臓病教室	5/24	14:00～15:00	1階山崎記念講堂	無料	不要	循環器科外来
がん患者・家族交流会	6/8	14:00～16:00		無料	不要	がん相談支援センター
腎臓病教室	5/13	11:00～12:30	5階 1階中央採血室	無料	電話0422-32-3125(直通)	腎臓病相談センター
	6/28	14:30～16:00	3階 1階山崎記念講堂	無料	月～金 9:30～16:00	がん相談支援センター
プレおばあちゃん教室	5/17	13:00～15:00	母子保健相談室	3,000円/1人	産婦人科外来	産婦人科外来

★詳しくは当院ホームページ→病院内へ「公開講座・イベント」でご紹介しています。



武蔵野赤十字病院

No.53

2017年 春

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの

外科



腎臓内科



頼れる病院をめざします

基本理念

- 病人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



腎臓内科

副院長兼腎臓内科部長 安藤 亮一

腎臓内科は、常勤5名の体制で、慢性腎臓病、急性腎不全、全身疾患にともなう腎臓病などの診断や治療を行っています。

腎臓専門外来では、原則として地域の先生方に紹介をいただいた方を対象として、腎臓病の診断・治療を行っています。

蛋白尿や血尿の場合は、原因となる腎臓病に関する精密検査を行い、必要に応じて、腎臓の組織検査（腎生検）を行い、原因となる腎疾患を特定し、治療を行います。

腎生検で診断される腎臓病のうちでもっとも多いIgA腎症に対しては、治療効果が高いとされる扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法を耳鼻科と協力して、積極的に行っています。ネフローゼ症候群は、大量の蛋白尿や浮腫を伴う腎臓病ですが、原因に応じてステロイド治療や免疫抑制療法をしています。急速進行性糸球体腎炎は蛋白尿、血尿を主体に急速に腎機能が低下し、ときに、発熱、体重減少などの全身症状を伴う場合もあります。原因としては、ANCA関連血管炎が多く、ステロイド、免疫抑制療法、血漿交換などの専門的治療を行います。その他、膠原病や他の病気が原因の腎炎に対する診療も行っています。

腎機能が慢性に低下する慢性腎臓病の方に対しては、かかりつけ医や栄養士と協力して、食事療法をはじめとした集学的治療により腎不全進行の抑制に努めています。

2014年度から、常染色体優性多発性嚢胞腎に対する内服薬による進行を抑制する治療も積極的に行っていますので、該当する方はご相談ください。

透析センターは25床で、慢性透析の導入、急性腎不全に対する急性血液浄化、腎臓病を持病にもつ入院治療を要する合併症の方や手術前夜の透析、腹膜透析、各種アレルギー治療を行っています。年間500人前後の方を担当しており、慢性透析の新規導入は年間80～90人です。

透析に必要なシャントの狭窄や閉塞などに対しては、経皮的血管拡張術（PTA）やシャント再建術を施行しております。

腎臓内科では、これらの診断・治療を患者さんの希望に沿うように、チーム医療で行っていますので、どうぞよろしくお問い合わせください。



外科

外科部長 高松 啓

日頃皆様には当院外科の診療に関しまして、多大なるご理解、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今回は外科について紹介させていただきます。

現在外科は嘉和加副院長以下、総勢11名のスタッフで診療しており、われわれが特に力を入れているのが悪性疾患（がん）と救急疾患です。

悪性疾患に関しましては、当院は地域がん診療拠点病院ですので、消化器がんに対する標準的かつ専門的な外科治療を提供するために臓器別診療をおこなっております。食道がんは東京医科歯科大学の食道外科より派遣されております中髙医師、胃がんは大司副部長、十二指腸および肝胆膵がんは高松、大腸がんは長野副部長、加藤副部長が担当しています。現在のがん診療では関連各科による集学的治療が重要ですが、消化器がんにおいては今日でも外科手術が根治の望める治療であることに変わりはありません。胃がんおよび大腸がんでは従来の開腹手術に加えて、患者さんの負担が少ない「腹腔鏡手術」を積極的に導入しております。肝胆膵がんは難治がんが多く、難度の高い手術が必要となることが多い領域ですが、当科は手術件数の多い施設として日本肝胆膵外科学会の認定を受けています。

救急疾患に関しましては、救急車や周辺の医療機関からの要請を断らないことを原則に、専門にこだわらずに全員で時機を逸しないよう迅速かつ適切な対応を心がけております。

私たち外科がこの地域の医療において最も貢献できるところは、やはり手術の必要な患者さんに適切なタイミングで適切な手術をおこなうことと考えております。そのため、当科の治療が一段落したところで、転院をお願いすることもあるかと存じますが、限りあるベッドを有効に利用し、一人でも多くの患者さんに手術を受けていただけるよう、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

これらもますます地域の医療に貢献できるようスタッフ一同がんばりますので、今後ともどうぞよろしくお問い合わせください。

